

(様式2)

授業科目 音声学

科目コード番号

【担当教員名】 亀田和夫	対 象 学 年	2	対 象 学 科	言語
	開 講 時 期	後期	必修・選択	必修
	単 位 数	1	時 間 数	15

【概要】

音声、言語の障害に対処しようとするなら、音声と言語がどのように作られ、どのように認識されるかを理解していなければならない。しかし私たちは、例えば「ア」という音声はどのような口の形で出されるか、と問われてもすぐには説明できない。本科目は音声の基本を解き明かしていくことを目的とする。音声については、文科系の言語学の一部としての音声学と、理工系の音響学・情報工学の双方から研究がすすめられ知見が得られてきた。音声と言語の障害に対処するにはこの両方の知識が必要となるので、柔軟な態度で学ぶことが必要である。

【使用図書】

教科書・参考書等	書 名 等	著 者 名	発 行 所	発行年・価格・その他
教科書	声と言葉のしくみ	亀田和夫	口腔保健協会	1986年. 1600円 ISBN: 4-89605-044-4
参考書	岩波講座・言語の科学2: 音声	白井克彦他	岩波書店	1998年. 3800円 ISBN: 4-00-010852-2
	音声学	服部四郎	岩波書店	1984年. 5900円 ISBN: 4-00-000232-5
その他 (プリント等)				

【評価方法】

出席、講義中の応答、レポートの成績、定期試験の成績を総合評価する。

【履修上の留意点】

音声学演習との間で授業時間の一部を交換することがある。

【本科目の一般教育目標: GIO (General Instructional Objective)】

音声の機構を理解し、音声・言語の障害に対処する方法を習得するための基礎を作る。

【行動目標: SBO (Specific Behavioral Objectives)】

1. 音声学の基礎概念を学ぶ: 文節の特徴と韻律の特徴, 音節, 単音, 音素。
2. 母音と子音の分類法を知り, 性質を理解する。
3. 音声の生物学的基礎を理解する。
4. 発声器官の構造と発声の機構を学ぶ。
5. 音声の分析法について学ぶ。
6. 聴覚の末梢および中枢機構を理解し, 言語認識と脳について学ぶ。
7. 音声の認識についての諸知見を学ぶ。

授業計画

教室

回数	授業内容	SBO 番号	担当 教員	教授学習法	学習課題 又は 備考
1	音声科学の発展, 音声学の基礎概念	1	亀田	講義	
2	母音の性質と分類	2	亀田	講義	
3	子音の性質と分類	2	亀田	講義	
4	音声の生物学的基礎と発声器官の構造	3, 4	亀田	講義	
5	発声の機構と音声の分析	4, 5	亀田	講義	
6	聴覚の機構と脳による言語の認識	6	亀田	講義	
7	音声の認識に関する現在の知見	7	亀田	講義	

その他